タイトル: 麦類均等播栽培の播種密度と施肥法

「要約

種子を 1 粒づつ均等に播種する<u>均等播栽培</u>は全面全層播およびドリル播栽培に比べ多収となる。生育・収量等と播種機の作業性の観点から、<u>適正播種密度</u>は条間 10cm、株間 5cm の 200 粒/㎡である。<u>施肥法</u>は基肥 6kgー追肥 3kg で安定多収となる。

香川県農業試験場・作物、農業機械、土壌肥料担当

[連絡先] 087-889-1121

[部会名] 水田·畑作

「専門」栽培

「対象〕麦類

[分類] 研究

[背景・ねらい]

麦の民間流通時代に対応する高品質・安定栽培技術が求められている。そこで香川農試が開発した均等 播種機(株ジョーニシと共同開発)を用いて均等播栽培の収量性を検討するとともに、適正な播種密度、 播種パターン及び施肥法について明らかにする。

「成果の内容・特徴]

- 1. 均等播栽培は、出芽が安定し、全面全層播に比べ茎数の確保が容易である。播種密度については、高いと最高茎数が多く穂数も多くなるが、成熟期は早まり、低収となる。また、低いと穂数は確保しにくいものの、長穂となり、収量は確保されるが、成熟期は遅れ、裸麦では倒伏し易くなる。生育・収量・耐倒伏性・適正成熟期等からみた適正播種密度は200粒/㎡(播種間隔 7×7,10×5cm)である(表1)。
- 3. 均等播栽培は、基肥 6kg(10a 当たり窒素成分、以下同様)-追肥 3kg の標準的な施肥法で小麦、裸麦とも全面全層播、ドリル播栽培に比べ多収となり、裸麦では大粒となる($\underline{&2}$)。また、施肥水準を高めることでより多収となるが、基肥・追肥ともに上乗せした 9kg-3kg-3kg では倒伏しやすくなる。よって、6kg-3kg-3kg の施肥法が倒伏も少なく、安定的に多収となり、この施肥体系での平均収量は小麦(ダイチノミノリ)で 67.3kg/a、裸麦(イチバンボシ)で 62.7kg/a であった(図 1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 追肥の上乗せによる増収が期待できるが、地力、土質等を考慮する必要がある。

[その他]

研究課題名:麦類栽培法の確立

予算区分:県単

研究期間:平成6年~平成10年度

研究担当者:山田千津子、村上優浩、藤田 究、森 芳史、西村 恵、西村融典、松野宏治

発表論文等:なし

表1 播種密度及び播種様式と生育収量(平成6、7年播の平均)

品種	播種法	播種様式		出芽数	茎数	穂長	穂数	成熟期	倒伏	収量	同左比	外観
			(播種量)	本/m²	本/m²	cm	本/m²	月日	0~5	kg/a	%	品質
			5×5 cm	396	1911	8.0	725	6. 5	0.0	58.6	91	1.7
y		1:1配置	7×7	204	1515	8.5	679	6.6	0.0	65.2	101	1.5
1	均等播		10×10	100	1062	9.2	473	6.8	0.0	65.7	102	1.7
チ			7×3.5	407	2003	8.1	771	6. 5	0.0	61.5	95	1.8
1		2:1配置	10×5	200	1429	8.7	649	6.6	0.0	67.5	105	1.5
3			14×7	102	1031	9.1	473	6.8	0.0	68.8	107	1.7
1			2.8kg/a	373	1419	8.1	659	6. 5	0.0	59.8	93	1.7
IJ	全面全層播	ランダム	1.4	191	1118	8.7	620	6.6	0.0	64.4	(100)	1.5
			0.7	91	825	9.4	514	6.8	0.0	59.2	92	1.8
		-2007/18/00	5×5 cm	400	2462	4.5	789	5.25	0.0	61.9	102	1.8
1		1:1配置	7×7	204	1903	5.0	667	5.25	0.0	64.4	106	1.5
チ	均等播		10×10	100	1334	5.3	610	5.27	0.9	67.5	108	1.5
13			7×3.5	408	2748	4.7	799	5.25	0.0	62.5	103	1.5
2		2:1配置	10×5	200	1862	5.0	707	5.25	0.4	64.7	107	1.5
ボ			14×7	102	1298	5.2	591	5.27	1.3	63.7	105	1.5
ボシ	全面全層播	ランダム	2.8kg/a	491	2070	4.7	743	5.25	0.0	58.4	97	1.7
			1.4	234	1469	5.0	644	5.27	0.0	60.5	(100)	1.5
			0.7	110	912	5.1	517	5.28	0.8	60.5	100	1.3

注1) 施肥法は、H6年播は10a当たりN成分6(基肥)-3(2/16), H7年播は6(基肥)-3(2/20)-2(3/26)である。

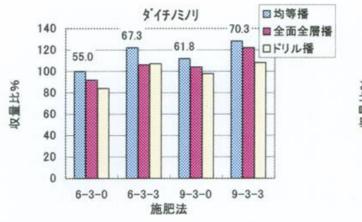
注2) 倒伏は達観で0:無~5:甚の6段階評価、外観品質は1:上上~6:下の6段階評価とした。

表2 均等播栽培と全面全層播及びドリル播栽培の生育収量(平成8~10年播の平均)

品種	播種法	出芽数	草丈	茎数	稈長	穂長	穂数	倒伏	収量	同左比	千粒重	L重	外観
		本/m³	cm	本/m²	cm	cm	本/m²	0~5	kg/a	%	g	g	品質
	均等播	158	29.4	865	79.2	8.1	508	0.0	51.4	105	40.4	784	1.9
ダイチノミノリ	全面全層播	154	29.3	817	79.0	8.1	485	0.0	49.4	(100)	40.6	781	2.3
	均等播	148	28.1	900	77.8	8.0	529	0.0	54.6	107	41.1	780	2.2
	ドリル播	147	29.5	742	79.8	8.2	505	0.0	50.8	(100)	40.9	779	2.2
	均等播	192	20.1	833	80.7	5.1	549	0.0	56.6	121	34.4	810	3.1
イチハ'ンホ'シ	全面全層播	228	18.9	935	76.5	5.0	543	0.1	46.7	(100)	33.5	806	3.1
	均等播	166	18.2	779	76.0	5.0	536	0.0	47.2	117	34.9	792	3.1
	ドリル播	212	17.8	768	72.2	4.9	559	0.3	40.2	(100)	33.7	793	3.0

注1) 均等播の播種間隔は10×5cm、全面全層播は播種量1.4kg/a、ドリル播は条間20cmである。

注2) 施肥法は基肥6一追肥3(窒素成分kg/10a)である。 倒伏、外観品質は表1に同じ。



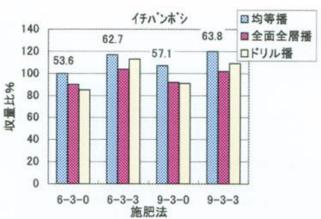


図1 均等播、全面全層播、ドリル播の収量と施肥法(平成9,10年播の平均)

- 注1) 施肥法は窒素成分kg/10aで基肥-追肥(2/中旬)-追肥(3/中旬)である。
- 注2) 均等播の播種間隔は10×5cm、全面全層播は播種量1.4kg/a、ドリル播は条間20cmである。
- 注3) 収量比は均等播の6-3-0に対する比率で表した。グラフ上の数値は均等播の収量(kg/a)である。